

Glicoグループ環境ビジョン2050の実現に向けて

【江崎グリコ株式会社の概要】

- 創業：1922年（大正11年）2月11日
- 本社：大阪府大阪市
- 主な事業内容：菓子、冷菓、食品、牛乳・乳製品の製造及び販売
- 工場：国内14か所
- 営業所：全国10拠点
- 関係会社：国内7社、海外19社
（データは2022年12月末現在）



【目標】

- Glicoグループは2021年、重要課題に基づいた4つの分野（①気候変動への対応・温室効果ガスの削減、②持続可能な水資源の活用、③持続可能な容器包装資源の活用、④食品廃棄物の削減）について2050年をゴールとした中長期ビジョンを設定。

「持続可能な容器包装の活用」

2050年度までに
プラスチックを100%リサイクル原料に、
紙を100%森林認証紙にそれぞれ切り替える



【取組の状況と今後の課題】

- 品質向上を目指し、容器・包装の機能を追求するとともに、減量化による環境負担の低減にも取り組む。
- 箱型商品については、家庭から排出されるゴミの容積を削減するため、小さくたためる加工を行う。
- プラスチックの容器包装製品については、サーキュラーエコノミーとして有効利用できるよう幅広い観点で取り組み、検討をすすめている。



江崎グリコ株式会社（大阪府）

【プラスチック容器の軽量化による削減】

- 商品の容器を減量化すること等により、プラスチックの使用量を削減。



- 2018年度よりプラスチックトレーの軽量化に取り組み、年間約4トンの削減。



- 2022年より外包装の薄化に取り組み、従来比年間約42トンの削減。



- 2021年3月より商品のシュリンクフィルムを外し、容器に直接印刷することでプラスチックの使用量を削減。
- 同5月から容器の一部原料をバイオマスプラスチックに置き換えることにより、年間約24トンの削減。

【プラスチック容器の素材の見直し】

- 植物由来原料を配合したプラスチックを使用することにより環境対応型素材の導入を進める。



※2020年2月撮影

- 2022年からすべてのストローの素材について植物由来素材を5%以上使用したプラスチックに変更



- 2019年度よりアイスのスティックを10%植物由来のバイオマスプラスチックに変更。（サトウキビから作ったポリエチレンを使用）

【森林認証紙の使用】

- 国際的な森林認証団体から認証された環境配慮紙の使用を順次拡大



国際的な森林団体の認証紙を使用した商品（一部）